

# 令和 6 年度自己点検・評価報告書



令和 7 年 9 月  
国立大学法人鹿児島大学

# 目 次

|                               |    |
|-------------------------------|----|
| ○ 大学の概要                       | 1  |
| ○ 内部質保証の実施体制                  | 2  |
| ○ 自己点検・評価の目的、評価の方法、関係規則       | 3  |
| ○ 大学機関別認証評価の基準に基づき実施する自己点検・評価 | 4  |
| ○ 第4期中期目標・中期計画の進捗状況に係る自己点検・評価 | 19 |

# 【大学の概要】※詳細は「大学概要 2025」(<https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/gaiyou.html>) 参照

## ①所在地

本部：鹿児島県鹿児島市郡元

郡元キャンパス：鹿児島県鹿児島市郡元、桜ヶ丘キャンパス：鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘、下荒田キャンパス：鹿児島県鹿児島市下荒田

## ②学部等の構成

(学部) 法文学部、教育学部、理学部、医学部、歯学部、工学部、農学部、水産学部、共同獣医学部

(大学院) 人文社会科学研究科、教育学研究科、保健学研究科、理工学研究科、農林水産学研究科、医歯学総合研究科、臨床心理学研究科、共同獣医学研究科、連合農学研究科

(附属病院) 鹿児島大学病院

(機構) 総合教育機構（高等教育研究開発センター、共通教育センター、キャリア形成支援センター、中等・高等教育接続センター、グローバルセンター、教師教育開発センター、稲盛アカデミー）

(ヒトレトロウイルス学共同研究センター)

(学内共同教育研究施設) 附属図書館、保健管理センター、総合研究博物館、埋蔵文化財調査センター、環境安全センター、情報基盤統括センター、地域防災教育研究センター、南九州・南西諸島域イノベーションセンター、国際島嶼教育研究センター、先端科学研究推進センター

## ③学生数（括弧書きは内数で留学生を示す）及び教職員数（令和 7 年 5 月 1 日現在）

| (学部学生数) |                 | (大学院学生数)  |                 | (教員数)         |
|---------|-----------------|-----------|-----------------|---------------|
| 法文学部    | 1,802 人 ( 10 人) | 人文社会科学研究科 | 85 人 ( 33 人)    | 1,196 人       |
| 教育学部    | 836 人 ( 1 人)    | 教育学研究科    | 34 人 ( 0 人)     | (職員数) 2,829 人 |
| 理学部     | 813 人 ( 5 人)    | 保健学研究科    | 83 人 ( 0 人)     |               |
| 医学部     | 1,211 人 ( 0 人)  | 理工学研究科    | 647 人 ( 32 人)   |               |
| 歯学部     | 317 人 ( 3 人)    | 農林水産学研究科  | 219 人 ( 31 人)   |               |
| 工学部     | 1,939 人 ( 24 人) | 医歯学総合研究科  | 340 人 ( 25 人)   |               |
| 農学部     | 837 人 ( 12 人)   | 臨床心理学研究科  | 32 人 ( 0 人)     |               |
| 水産学部    | 613 人 ( 3 人)    | 共同獣医学研究科  | 39 人 ( 12 人)    |               |
| 共同獣医学部  | 249 人 ( 2 人)    | 連合農学研究科   | 117 人 ( 48 人)   |               |
| 計       | 8,617 人 ( 60 人) | 計         | 1,596 人 (181 人) |               |

④教育情報 本学ホームページ (<https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/activity.html>) 参照（基幹教員に関する情報等も含む）

⑤財務情報 本学ホームページ (<https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/zaimu.html>) 参照

# 鹿児島大学における内部質保証の実施体制

## 内部質保証：

教育、研究及び診療、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について継続的に点検・評価を行い、改善・向上に努めることを通じて、本学の教育研究等の質を保証すること。

## 統括責任者

### 学 長

教育研究評議会、経営協議会、役員会

②報告

③改善計画の決定  
及び改善指示

## 公表

自己点検・評価報告書

学校教育法  
第109条第1項

## 企画・評価委員会

理事・副学長  
(企画・社会連携担当)

自己点検・評価の結果等を確認、取りまとめ

①自己点検・評価の結果の報告  
改善計画及び改善の進捗報告

④改善指示

④改善指示

①自己点検・評価の結果の報告  
改善計画及び改善の進捗報告

## 推進責任者

全学委員会（内部質保証に係る組織）が所掌する業務及び中期計画の進捗状況について、自己点検・評価を実施する（年1回）。

### 理事・副学長 (教育担当)

- ・教務委員会
- ・共通教育委員会
- ・ファカルティ・ディベロップメント委員会
- ・教員養成カリキュラム委員会
- ・オープンキャンパス実行委員会
- ・入試委員会
- ・学生生活委員会
- ・障害学生支援委員会
- ・保健管理センター運営委員会
- ・キャリア形成支援委員会

### 理事・副学長 (財務・施設担当)

- ・財務委員会
- ・施設マネジメント委員会
- ・環境安全委員会

### 理事・副学長 (企画・社会連携担当)

- ・大学改革検討会議
- ・企画・評価委員会
- ・産学官連携に係る利益相反マネジメント委員会

### 理事・副学長 (総務担当)

- ・内部統制委員会
- ・情報公開・個人情報保護管理委員会
- ・広報委員会
- ・ハラスメント防止委員会
- ・総合安全衛生管理委員会
- ・男女共同参画推進センター会議

### 理事・副学長 (研究・情報担当)

- ・動物実験委員会
- ・放射線安全管理委員会
- ・情報企画推進委員会
- ・附属図書館自己評価委員会

### 副学長 (国際担当)

- ・国際交流委員会

### 副学長 (附属病院担当)

- ・病院運営会議

連携

連携

## 部局等責任者

各部局等が所掌する業務及び中期計画の進捗状況について、自己点検・評価を実施する（年1回）。

各学部

各研究科

附属病院

機構又は機構の各センター

ヒトレトロウイルス学共同研究センター

各学内共同教育研究施設

事務局

第三者評価等の外部からの意見  
(認証評価、国立大学法人評価、その他の機関が行う評価)

## ●自己点検・評価の目的

大学は、その教育研究水準の向上に資するため、文部科学大臣の定めるところにより、当該大学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備（次項及び第五項において「教育研究等」という。）の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。（学校教育法 109 条第 1 項）

## ●評価の方法

### 1.大学機関別認証評価の基準に基づき実施する自己点検・評価

部局等及び内部質保証に係る組織（全学的な委員会）が、大学機関別認証評価の基準に基づき設定した下記の評価の観点等に沿って活動状況を点検し、評価を行った。

- ①「教育の内部質保証に関する実施要項」及び「共通教育に係る内部質保証に関する実施要項」に定める評価の観点
- ②「教育課程と学習成果に関する基準」（大学機関別認証評価（領域 6））に定める評価の観点
- ③「改善・向上が必要と確認された事項」に対する対応状況

### 2.第 4 期中期目標・中期計画の進捗状況に係る自己点検・評価

第 4 期中期計画の推進責任者（各理事、副学長等）が、当該中期計画の進捗状況について評価を行った。

## ●関係規則

国立大学法人鹿児島大学における内部質保証に関する規則

国立大学法人鹿児島大学における教育の内部質保証に関する実施要項

国立大学法人鹿児島大学の共通教育に係る内部質保証に関する実施要項

国立大学法人鹿児島大学における組織の自己点検・評価に関する実施要項

# 大学機関別認証評価の基準に基づき実施する自己点検・評価

## ①「教育の内部質保証に関する実施要項」及び「共通教育に係る内部質保証に関する実施要項」に定める評価の観点

### 【モニタリング（毎年点検・評価を実施）】

| 評価の観点                                                              | 具体的な評価方法                                                         | 適合<br>不適合 | 担当組織                |
|--------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|-----------|---------------------|
| 1. 授業科目の内容が、授与する学位にふさわしい水準にあるといえるか                                 | ・シラバスは組織的に点検したか                                                  | 適合        | 教務委員会               |
|                                                                    | ・シラバスの全ての項目について、適切に記載が行われているか                                    | 適合        |                     |
|                                                                    | ・各科目と学位授与方針や教育課程編成方針、教育課程の階梯性との整合性は取れているか                        | 適合        |                     |
|                                                                    | ・シラバスにおいて、適切な授業形態及び学習指導法が採用されていることを確認しているか                       | 適合        |                     |
| 2. 成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認しているか       | ・シラバスの「到達目標」に記載されている内容に基づき成績評価が適切に行われていることを組織的に確認しているか           | 適合        |                     |
|                                                                    | ・成績評価を厳格に行うための取組を実施しているか                                         | 適合        |                     |
| 3. 大学院課程（専門職学位課程を除く）において、学位論文の作成等に係る指導が実施されていることを組織的に確認しているか       | ・研究指導の基本方針及び指導体制、指導計画、審査手続き、評価基準等に基づく指導が適切に実施されていることを組織的に確認しているか | 適合        |                     |
| 4. 授業科目の内容が、共通教育の教育目標にふさわしい水準にあるといえるか                              | ・シラバスは組織的に点検したか                                                  | 適合        | 共通教育委員会             |
|                                                                    | ・シラバスの全ての項目について、適切に記載が行われているか                                    | 適合        |                     |
|                                                                    | ・各科目と共通教育の教育目標との整合性や教育課程の階梯性に問題はないか                              | 適合        |                     |
|                                                                    | ・シラバスにおいて、適切な授業形態及び学習指導法が採用されていることを確認しているか                       | 適合        |                     |
| 5. 成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認しているか       | ・シラバスの「成績の評価基準」に記載されている内容に基づき成績評価が適切に行われていることを組織的に確認しているか        | 適合        |                     |
|                                                                    | ・成績評価を厳格に行うための取組を実施しているか                                         | 適合        |                     |
| 6. 卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に即した学修成果が得られていることを確認しているか | ・卒業（修了）時アンケート等の実施を通じて卒業（修了）時の学生の学習成果に対する認識を把握しているか               | 適合        | ファカルティ・ディベロップメント委員会 |
|                                                                    | ・FD 等を実施しているか                                                    | 適合        |                     |

|                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |     |             |
|---------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-------------|
| 7.授業の内容及び方法の改善を図るためのファカルティ・ディベロップメント（FD）を組織的に実施し、その成果を把握しているか | ・FD 等の実施によってカリキュラムや教育内容・方法の改善は図られているか                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 適合  |             |
| 8.学生受入方針に沿った学生の受入が実際に行われているかを検証しているか                          | ・入学者選抜方針と入学者選抜の実態との整合性は担保できているか                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 適合  | 入試委員会       |
|                                                               | ・実入学者数が入学定員に対し適正な数となっているか<br><hr/> <b>&lt;不適合の理由および改善計画&gt;</b><br>学部、研究科【修士課程、博士前期課程、博士課程、専門職学位課程】においては、基準を満たしている。しかし、理工学研究科の博士後期課程の入学定員充足状況は過去 5 年平均で 47%となっており、基準を満たしていない状況である。博士後期課程では分野横断型教育体制やジョブ型インターンシップの導入など、イノベーション人材育成のための教育研究の推進に努め、進学説明会を企画して進学と学位取得に対する興味と意欲の向上を図ることや、企業の研究者を社会人学生として受入れるための検討など、入学希望者拡大に取り組んでいる。また、令和 9 年度までに直近 5 年間の平均比率が基準に適合するよう、学内外と連携した以下のような対策を進めている。<br>（令和 6 年度から進行中）<br>・近年の入学状況を踏まえ入学定員を見直した。<br>・奨学助成事業による経済的な修学支援制度を整備した。<br>・理工学研究科 DX コネクトセンター協議会において、産業界、自治体、教育機関との意見交換から社会が求める人材像を把握し、教育カリキュラムに反映させた。また企業等からの研究者の受入れについてアピールし、社会人学生の確保に努めている。<br>（令和 7 年度予定）<br>・国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムの更新。<br>・博士後期課程学生を指導する教員に対してインセンティブ経費を配分し、学生の受入れ促進を図る。 | 不適合 |             |
| 9.就職（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に即して適正な状況にあるといえるか | ・卒業（修了）生の就職あるいは進学状況を把握しているか                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 適合  | キャリア形成支援委員会 |
|                                                               | ・卒業（修了）生の就職あるいは進学状況は学位授与方針と整合性が担保できているか                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 適合  |             |
| 10.教育研究組織及び教育課程に対応した施設及び設備が整備されているか                           | ・教育研究活動を展開する上で必要な施設・設備を法令に基づき整備しているか                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 適合  | 企画・評価委員会    |
|                                                               | ・法令が定める実習施設等が設置されているか                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 適合  |             |

|                                                            |                                                                            |    |             |
|------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|----|-------------|
|                                                            | ・施設・設備における安全性について、配慮しているか                                                  | 適合 | 施設マネジメント委員会 |
|                                                            | ・教育研究活動を展開する上で必要な I C T 環境が整備されているか                                        | 適合 | 情報企画推進委員会   |
|                                                            | ・大学組織の一部としての図書館において、教育研究上必要な資料が利用可能な状態に整備されているか                            | 適合 | 図書館自己評価委員会  |
|                                                            | ・自習室、グループ討議室、情報機器室、教室・教育設備等の授業時間外使用等による自主的学習環境が十分に整備されているか                 | 適合 | 教務委員会       |
| 11. 学生（留学生を含む）に対して、生活や課外活動、経済面での援助等に関する相談・助言、支援体制が整備されているか | ・学生支援に関して関係者（学生等）から意見を聴取しているか                                              | 適合 | 学生生活委員会     |
|                                                            | ・生活支援等に関する総合的相談・助言体制の整備及び支援の実績を確認しているか                                     | 適合 |             |
|                                                            | ・各種ハラスメントに関する防止のための措置（規定及び実施内容）・相談の体制の整備及び相談実績を確認しているか                     | 適合 |             |
|                                                            | ・課外活動の支援について、課外活動団体数、課外活動施設設備の整備及び運営資金や備品貸与等の支援状況を確認しているか                  | 適合 |             |
|                                                            | ・奨学金の制度の整備状況と当該窓口の周知及び利用実績について確認しているか                                      | 適合 |             |
|                                                            | ・入学料・授業料免除、奨学金（給付、貸与）、学生寄宿等、大学固有の事情等に応じて、学生の経済面の援助が行われているか確認しているか          | 適合 |             |
|                                                            | ・障害のある学生、その他特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への生活支援の実施体制及び実施状況について、関係法令の趣旨を考慮して確認しているか | 適合 | 障害学生支援委員会   |

## ②「教育課程と学習成果に関する基準」（大学機関別認証評価（領域6））に定める評価の観点

＜対象：全ての学部・大学院＞

| 基準                                                                              | 分析項目  |                                                                                                                       | 適合<br>不適合 |
|---------------------------------------------------------------------------------|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 基準6-1<br>学位授与方針が具体的かつ<br>明確であること                                                | 6-1-1 | 学位授与方針を、大学等の目的を踏まえて、具体的かつ明確に策定しているか                                                                                   | 適合        |
| 基準6-2<br>教育課程方針が、学位授<br>与方針と整合的であること                                            | 6-2-1 | 教育課程方針において、学生や授業科目を担当する教員が解り易いように、①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示しているか                      | 適合        |
|                                                                                 | 6-2-2 | 教育課程方針が学位授与方針と整合性を有しているか                                                                                              | 適合        |
| 基準6-3<br>教育課程の編成及び授業<br>科目の内容が、学位授与方<br>針及び教育課程方針に則し<br>て、体系的であり相応しい水<br>準であること | 6-3-1 | 教育課程の編成が、体系性を有しているか                                                                                                   | 適合        |
|                                                                                 | 6-3-2 | 授業科目の内容が、授与する学位に相応しい水準となっているか                                                                                         | 適合        |
|                                                                                 | 6-3-3 | 他の大学又は大学以外の教育施設等における学習、入学前の既修得単位等の単位認定を行っている場合、認定に関する規定を法令に従い規則等で定めているか                                               | 適合        |
|                                                                                 | 6-3-4 | 大学院課程（専門職学位課程を除く）においては、学位論文（特定の課題についての研究の成果を含む）の作成等に係る指導（以下「研究指導」という）に関し、指導教員を明確に定めるなどの指導体制を整備し、計画を策定した上で指導することとしているか | 適合        |
|                                                                                 | 6-3-5 | 専門職学科を設置している場合は、法令に則して、教育課程が編成されるとともに、教育課程連携協議会を運用しているか                                                               | 該当しない     |
| 基準6-4 学位授与方針<br>及び教育課程方針に則し<br>て、適切な授業形態、学習<br>指導法が採用されていること                    | 6-4-1 | 1年間の授業を行う期間が原則として35週にわたるものとなっているか                                                                                     | 適合        |
|                                                                                 | 6-4-2 | 各科目の授業期間が10週又は15週にわたるものとなっているか。なお、10週又は15週と異なる授業期間を設定する場合は、教育上の必要があり、10週又は15週を期間として授業を行う場合と同等以上の十分な教育効果をあげているか        | 適合        |
|                                                                                 | 6-4-3 | 適切な授業形態、学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されているか                                                                           | 適合        |
|                                                                                 | 6-4-4 | 教育上主要と認める授業科目は、原則として専任の教授・准教授が担当しているか                                                                                 | 適合        |
|                                                                                 | 6-4-5 | 専門職大学院を設置している場合は、履修登録の上限設定の制度（CAP制度）を適切に設けているか                                                                        | 適合        |
|                                                                                 | 6-4-6 | 大学院において教育方法の特例（大学院設置基準第14条）の取組として夜間その他特定の時間又は期間に授業を行っている場合は、法令に則した実施方法となっているか                                         | 適合        |
|                                                                                 | 6-4-7 | 薬学に関する学部又は学科のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするものを設置している場合は、必要な施設を確保し、薬学実務実習を実施しているか                                         | 該当しない     |
|                                                                                 | 6-4-8 | 教職大学院を設置している場合は、連携協力校を確保しているか                                                                                         | 適合        |
|                                                                                 | 6-4-9 | 夜間において授業を実施している課程を置いている場合は、配慮を行っているか                                                                                  | 該当しない     |

|                                                   |        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |       |
|---------------------------------------------------|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
|                                                   | 6-4-10 | 通信教育を行う課程を置いている場合は、印刷教材等による授業、放送授業、面接授業（スクーリングを含む。）若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整備され、指導が行われているか                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 該当しない |
|                                                   | 6-4-11 | 専門職学科を設置している場合は、授業を行う学生数が法令に則しているか                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 該当しない |
| 基準 6-5<br>学位授与方針に則して、適切な履修指導、支援が行われていること          | 6-5-1  | 学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われているか                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 適合    |
|                                                   | 6-5-2  | 学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われているか                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 適合    |
|                                                   | 6-5-3  | 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組を実施しているか                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 適合    |
|                                                   | 6-5-4  | 障害のある学生、留学生、その他履修上特別な支援を要する学生に対する学習支援を行う体制を整えているか                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 適合    |
|                                                   | 6-5-5  | 正規学生が海外で学習する機会を提供し、有効に活用されていること                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 適合    |
| 基準 6-6<br>教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること    | 6-6-1  | 成績評価基準を学位授与方針及び教育課程方針に則して定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定しているか                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 適合    |
|                                                   | 6-6-2  | 成績評価基準を学生に周知しているか                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 適合    |
|                                                   | 6-6-3  | 成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われているかについて、組織的に確認しているか                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 適合    |
|                                                   | 6-6-4  | 成績に対する異議申立て制度を組織的に設けているか                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 適合    |
| 基準 6-7<br>大学等の目的及び学位授与方針に則して、公正な卒業・修了判定が実施されていること | 6-7-1  | 大学等の目的及び学位授与方針に則して、卒業又は修了の要件（以下「卒業（修了）要件」という。）を組織的に策定しているか                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 適合    |
|                                                   | 6-7-2  | 大学院教育課程においては、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査に係る手続き及び評価の基準（以下「学位論文審査基準」という。）を組織として策定されているか                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 適合    |
|                                                   | 6-7-3  | 策定した卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）を学生に周知しているか                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 適合    |
|                                                   | 6-7-4  | 卒業又は修了の認定を、卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）に則して組織的に実施しているか                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 適合    |
|                                                   | 6-7-5  | 専門職学科を設置している場合は、法令に則して卒業要件が定められているか                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 該当しない |
| 基準 6-8<br>大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られていること     | 6-8-1  | 標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率、資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあるか                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 不適合   |
|                                                   |        | <p><u>&lt;不適合の理由および改善計画&gt;</u></p> <p>【理学部】</p> <p>学部として対策を取る事ができない経済的理由（授業料未納や生活費の困窮等）で離籍する学生も一定数いるが、授業料免除や奨学金制度等を周知するとともに奨学金希望者へ丁寧な案内を行う等、経済的理由等で離籍する学生の減少に努めている。</p> <p>学習意欲の喪失等に対しては、保証人への成績送付の際、留年の恐れがある学生の保証人へ現況説明の手紙を同封するほか、新入生の保護者の集いにおいては、直接学部から保護者の皆様へ、「学生と適度なコミュニケーションをとっていただきたい」旨を伝え保護者の協力も得ながら、離籍率の改善を図っている。なお、成績不良者に対しては、担任教員が個別に学生と連絡を取り、状況の聞き取りを行ったうえで、今後の方向性等について検討し、それぞれの学生に寄り添った丁寧な指導を行っている。</p> |       |

また、離籍率の高い入学者選抜を令和7年度入学者選抜から廃止する等の見直しを行ったほか、新入生オリエンテーションで入学時に学生間の交流を深めることを目的としたグループ活動を企画し、学生及び保護者から好評を得ている。

効果的な改善計画を進めるため、標準修業年限×1.5年以内に卒業に至らなかった学生の要因をより詳細に分析し、学部として対応できることを継続するとともに、更なる改善計画に取り組む。

|                       | R2    | R3    | R4    | R5    | R6    | 平均    |
|-----------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 「標準修業年限×1.5」<br>年内卒業率 | 90.2% | 88.6% | 87.1% | 85.9% | 84.6% | 87.3% |

#### 【保健学研究科（博士後期課程）】

博士後期課程の学生は、看護師・理学療法士・作業療法士として就業しながら就学する方が多く、3年間の修業年限内での修了は過密で難しい院生も多い。母数（入学者数）が少ないため、年度によっては数値の変動幅が大きい。

一方で、時間はかかるがここ3年で20人が博士学位を取得と、博士課程設置15年間における課程博士学位取得者の42%を占めており、急速に増加し成果は現れてきた。また、今年度は、早期修了生を3名出しており、優秀な人材も増えている。

今年度の新入生オリエンテーションでも引き続きスケジュール管理の徹底を促し、5年間平均で70%を目指す。

|                       | R2    | R3    | R4    | R5    | R6    | 平均    |
|-----------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 「標準修業年限×1.5」<br>年内修了率 | 25.0% | 66.7% | 50.0% | 66.7% | 50.0% | 51.7% |

#### 【理工学研究科（博士後期課程）】

博士後期課程の「標準修業年限×1.5」年内修了率は5年平均で68.5%となっており、改善が必要な状況にある。社会人学生は時間的な制約から、標準修業年限内での修了が困難なケースがある。指導体制に関して、学生ひとりに3名以上の指導教員グループを整備し、主指導教員が学生個々の研究指導計画書を作成し明示した上で、学期ごとに実施する必修科目「専攻ゼミナール」にて研究成果の進捗状況を複数教員が確認する等、本研究科の指導の手引きに基づいたきめ細かい指導を実施している。「標準修業年限×1.5」年内修了率が改善傾向にあることから、学生の事情に応じて長期履修学生制度の活用を勧めつつ、引き続き修了率の向上策を実施していく。

|                       | R2    | R3    | R4    | R5    | R6    | 平均    |
|-----------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 「標準修業年限×1.5」<br>年内修了率 | 83.3% | 59.1% | 53.8% | 71.4% | 75.0% | 68.5% |

【医歯学総合研究科（博士課程）】

博士課程の学生は主として医師・歯科医師であり、職業人でもあるため、標準修了年限の4年で学位を取得する学生は多くはない。学業に専念できる環境作りを学生が所属する医局等に働きかけたり、4年以内に学位を取得した学生を表彰しているが、慢性的な医師不足の影響で他学系の大学院とは事情を異にする。

しかしながら、時間はかかっても多くの学生が学位取得に至っている。これらの取組を継続して、令和9年度までに改善させる。

|                       | R2    | R3    | R4    | R5    | R6    | 平均    |
|-----------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 「標準修業年限×1.5」<br>年内修了率 | 52.4% | 55.2% | 54.1% | 58.8% | 59.6% | 56.0% |

【共同獣医学研究科（博士課程）】

令和3年度末に初めての修了者を予定していたが、標準修業年限修了予定対象者5名に対して修了者は0名であった。これは、本研究科初年度の入学生の多数が社会人入学生であったため、在籍途中にコロナ禍となったことにより本業でのコロナ対応に時間を多くとられてしまい、本研究科での研究に専念することができなかったことが理由として挙げられる。

本研究科生の研究の進捗状況を把握するために、令和3年度より1年に1回「研究活動年次報告書」の提出を義務付けることにした。

これにより、令和4年9月には、標準修業年限短縮による修了者1名、標準修業年限内の修了者1名、「標準修業年限×1.5」年内修了者1名、令和5年3月には、標準修業年限内の修了者を1名、「標準修業年限×1.5」年内修了者1名、令和5年9月には「標準修業年限×1.5」年内修了者1名、令和6年3月には標準修業年限内の修了者2名と「標準修業年限×1.5」年内修了者1名の合計9名が博士の学位を取得した。令和6年9月には標準修業年限内修了者1名、「標準修業年限×1.5」年内修了者1名、令和7年3月には標準修業年限内修了者1名の合計12名が博士の学位を取得した。

|                       |  |  |  | R5    | R6    | 平均    |
|-----------------------|--|--|--|-------|-------|-------|
| 「標準修業年限×1.5」<br>年内修了率 |  |  |  | 36.4% | 57.1% | 46.8% |

|       |                                                                         |    |
|-------|-------------------------------------------------------------------------|----|
| 6-8-2 | 就職（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあるか                  | 適合 |
| 6-8-3 | 卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られているか                  | 適合 |
| 6-8-4 | 卒業（修了）後一定期間の就業経験等を経た卒業（修了）生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られているか | 適合 |
| 6-8-5 | 就職先等からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られているか                        | 適合 |
| 6-8-6 | 教育の国際化の優れた取組により、その取り組みの目的に則した学習成果の向上が図られていること                           | 適合 |

### ③「改善・向上が必要と確認された事項」に対する主な改善状況

| No                      | 改善・向上が必要と確認された事項 |                                                                                                                                                                                     |                                                                 | 進捗状況  | 対応状況<br><br>(改善・向上するための計画、または改善した内容等)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 部局等   |    |    |    |    |    |    |                         |       |       |       |       |       |       |  |    |    |    |    |    |    |                         |       |       |       |       |       |       |                                                                        |
|-------------------------|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|----|----|----|----|----|----|-------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--|----|----|----|----|----|----|-------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------------------------------------------------------------------------|
|                         | 年月               | 内容                                                                                                                                                                                  | 根拠                                                              |       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |       |    |    |    |    |    |    |                         |       |       |       |       |       |       |  |    |    |    |    |    |    |                         |       |       |       |       |       |       |                                                                        |
| 1                       | R3.8<br><br>R5.1 | <p>・「標準修業年限×1.5」年内卒業(修了)率が相当程度低い。(学士課程：90%未満、修士・博士前期課程、専門職学位課程：85%未満、博士後期課程、一貫制博士課程：70%未満)</p> <p>・標準修業年限内の卒業(修了)率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業(修了)率、資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあるか</p> | 第3期中期目標期間4年目終了時評価<br><br>令和3年度自己点検・評価（認証評価の基準に基づく評価：様式3（6－8－1）） | 対応中   | <p><b>【理学部】</b></p> <p>学部として対策を取る事ができない経済的理由（授業料未納や生活費の困窮等）で離籍する学生も一定数いる。授業料免除や奨学金制度等を周知するなど、経済的理由等で離籍する学生の減少に努めている。</p> <p>学習意欲の喪失等に対しては、保証人への成績送付の際、留年の恐れがある学生の保証人へ現況説明の手紙を同封するほか、成績不良者に対しては個別指導を丁寧に行うなどの対応をしている。</p> <p>また離籍率の高い入学者選抜を令和7年度入学者選抜から廃止する等の見直しを行ったほか、新入生オリエンテーションで入学時に学生間の交流を深めることを目的としたグループ活動を企画するなど、離籍率の改善を図っている。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>平均</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「標準修業年限 × 1.5」<br/>年内卒業率</td><td>87.1%</td><td>90.7%</td><td>88.6%</td><td>87.1%</td><td>85.9%</td><td>87.9%</td></tr> </tbody> </table> <p><b>【保健学研究科（博士後期課程）】</b></p> <p>博士後期課程の学生は、看護師・理学療法士・作業療法士として就業しながら就学する方が多く、修業年限内の修了が難しい。母数（入学者数）が少ないため、年度によっては数値の変動幅が大きい。</p> <p>この数年の新型コロナ流行による研究計画への影響も残っている可能性もあり、学生の研究進捗状況を運営委員会で定期的に確認している。</p> <p>また、一方で、時間はかかるがここ5年で29人が博士学位を取得と、その前の10年間を超える学位取得者を出していることから、働きかけが成果につながりつつある。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>平均</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「標準修業年限 × 1.5」<br/>年内修了率</td><td>50.0%</td><td>25.0%</td><td>66.7%</td><td>50.0%</td><td>66.7%</td><td>51.7%</td></tr> </tbody> </table> <p><b>【理工学研究科（博士後期課程）】</b></p> <p>博士後期課程には、社会人学生が多く在籍しており、時間的な制約から標準修業年限内での修了が困難な学生が一定数いる。博士後期課程の研究計画の遂行と成果、考察と展望について</p> |       | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | 平均 | 「標準修業年限 × 1.5」<br>年内卒業率 | 87.1% | 90.7% | 88.6% | 87.1% | 85.9% | 87.9% |  | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | 平均 | 「標準修業年限 × 1.5」<br>年内修了率 | 50.0% | 25.0% | 66.7% | 50.0% | 66.7% | 51.7% | <p>理学部</p> <p>保健学研究科</p> <p>理工学研究科</p> <p>医歯学総合研究科</p> <p>共同獣医学研究科</p> |
|                         | R1               | R2                                                                                                                                                                                  | R3                                                              | R4    | R5                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 平均    |    |    |    |    |    |    |                         |       |       |       |       |       |       |  |    |    |    |    |    |    |                         |       |       |       |       |       |       |                                                                        |
| 「標準修業年限 × 1.5」<br>年内卒業率 | 87.1%            | 90.7%                                                                                                                                                                               | 88.6%                                                           | 87.1% | 85.9%                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 87.9% |    |    |    |    |    |    |                         |       |       |       |       |       |       |  |    |    |    |    |    |    |                         |       |       |       |       |       |       |                                                                        |
|                         | R1               | R2                                                                                                                                                                                  | R3                                                              | R4    | R5                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 平均    |    |    |    |    |    |    |                         |       |       |       |       |       |       |  |    |    |    |    |    |    |                         |       |       |       |       |       |       |                                                                        |
| 「標準修業年限 × 1.5」<br>年内修了率 | 50.0%            | 25.0%                                                                                                                                                                               | 66.7%                                                           | 50.0% | 66.7%                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 51.7% |    |    |    |    |    |    |                         |       |       |       |       |       |       |  |    |    |    |    |    |    |                         |       |       |       |       |       |       |                                                                        |

は、学期ごとに実施される必修科目「専攻ゼミナール」にて、複数教員によりチェックされ、PDCA サイクルを学生自身で回せるように、カリキュラムを設計しており、研究成果についても同じく「専攻ゼミナール」によって、その進捗状況を複数教員が確認している。

令和 3 年度からは指導教員が学生個々に研究指導計画書を作成することとし、計画の見直しも含めたきめ細かい指導をしている。「標準修業年限×1.5」年内修了率は、過去 5 年平均 61.9%となっており、引き続き向上策を実施していく。

なお、特に社会人学生の場合、勤務先における業務の都合上、一時的に学業を中断せざるを得ない場合もある。

|                       | R1    | R2    | R3    | R4    | R5    | 平均    |
|-----------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 「標準修業年限×1.5」<br>年内修了率 | 42.1% | 83.3% | 59.1% | 53.8% | 71.4% | 61.9% |

#### 【医歯学総合研究科（博士課程）】

博士課程の学生は主として医師・歯科医師であり、職業人でもあるため、標準修了年限の 4 年で学位を取得する学生は多くはない。学業に専念できる環境作りを学生が所属する医局等に働きかけたり、4 年以内に学位を取得した学生を表彰しているが、慢性的な医師不足の影響で他学系の大学院とは事情を異にする。

しかしながら、時間はかかっても多くの学生が学位取得に至っている。これらの取組を継続して、令和 9 年度までに改善させる。

|                       | R1    | R2    | R3    | R4    | R5    | 平均    |
|-----------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 「標準修業年限×1.5」<br>年内修了率 | 60.4% | 54.8% | 56.7% | 50.8% | 58.8% | 56.3% |

#### 【共同獣医学研究科（博士課程）】

令和 3 年度末に初めての修了者を予定していたが、標準修業年限修了予定対象者 5 名に対して修了者は 0 名であった。これは、本研究科初年度の入学生の多数が社会人入学生であったため、在籍途中にコロナ禍となったことにより本業でのコロナ対応に時間を多くとられてしまい、本研究科での研究に専念することができなかったことが理由として挙げられる。

本研究科生の研究の進捗状況を把握するために、令和 3 年度より 1 年に 1 回「研究活動年次報告書」の提出を義務付けることにした。

これにより、令和 4 年 9 月には、標準修業年限短縮による修了者 1 名、標準修業年限内の修了者 1 名、「標準修業年限×1.5」年内修了者 1 名、令和 5 年 3 月には、標準修業年限内の修了者を 1 名、「標準修業年限×1.5」年内修了者 1 名、令和 5 年 9 月には「標準修業年限

×1.5]年内修了者1名、令和6年3月には標準修業年限内の修了者2名と「標準修業年限×1.5]年内修了者1名の合計9名が博士の学位を取得した。

|                       |  |  |  |  | R5    | 平均    |
|-----------------------|--|--|--|--|-------|-------|
| 「標準修業年限×1.5」<br>年内修了率 |  |  |  |  | 27.3% | 27.3% |

1) 全学的に SA 制度導入等を求め、教育補助ができるように検討する。  
→ 共同獣医学研究科で TA を担当できる大学院生が少数であることから、全学的に学部学生が担当できる SA 制度の導入を求めてきた。しかし、未だ SA 制度の導入には至っておらず、現状では、学部生に大学院進学に関する情報を提供する中で、大学院生が TA を担当できることの説明を強調して志望者増を図った。その結果、令和4年度には TA 有資格者となる大学院への内部進学者が増加し、TA を担当できる大学院生が確保された。

大学基準協会からは「本件に関する検討課題での指摘を真摯に受け止め、TA 有資格者である大学院学生の確保に努めることで、指摘事項の改善に取り組んでいる。」と評価された。研究科への入学者の確保も安定してきたことから、令和5年度には TA 候補者が19名確保されることとなったが、SA 制度の導入については引き続き検討が必要である。

2) 大学間を跨いだ独自のシステムを開発することは容易ではないため、担当教員間における双方のシラバスの事前・事後確認を行うなど、記載事項に不備が無いよう注意する。  
→ 各大学のシラバス等の情報システムやネットワークは、大学毎に管理されているため、大学間を跨いだ独自のシステムを開発することは容易ではない。そのため現状では、各大学の担当教員が双方のシラバス記載事項に不備が無いようチェックするシステムを構築し、開講前後に確認している。

具体的には、令和2年度シラバスの入力開始時（令和2年1月末）に全教員に対して、カウンターパートの担当シラバスの記載内容を確認し、表記を統一するように周知した。シラバス作成のチェックフローに従って両大学で共有・確認することで、シラバスの記載事項の不備をなくすチェック体制を構築した。令和3年度においても、シラバス入力時期に担当教員へ周知・依頼し、両大学事務担当者間でも共有し、確認を完了した。

大学基準協会からは「当該共同獣医学教育課程では、本件に関する検討課題での指摘に対し、大学間を横断するような独自システムの導入は困難であることから、共通のシラバスチェックフローを新たに作成し、両大学間でそれを共用し実行するという方法により、シラバス記載内容の不備をなくすように取り組んだ。しかし、いまだに両大学間におけるシラバス各項目の記載が統一されていない科目が少なからず見受けられる。例えば、担当教員、持続可能な開発目標の表記、成績評価法、教科書や参考書の記載に齟齬がみられ、シラバスチェックフローにある各担当事務による入力内容のチェック体制に不備があると考えられる。したがって、各教員によるシラバス公開前の確認プロ

共同獣医学部

|          |      |                                                                                         |                                      |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |  |    |    |    |    |    |        |    |    |    |     |     |        |     |     |     |     |     |         |     |     |     |     |     |  |    |    |    |    |    |          |     |    |     |     |     |        |
|----------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|----|----|----|----|----|--------|----|----|----|-----|-----|--------|-----|-----|-----|-----|-----|---------|-----|-----|-----|-----|-----|--|----|----|----|----|----|----------|-----|----|-----|-----|-----|--------|
|          |      |                                                                                         |                                      |     | セスの導入など、なお一層の改善が望まれる。」と評価された。このことに関し、その後も両大学学部協議会において検討し、シラバス内容の統一について、両大学の構成員に周知徹底を行い、令和5年度も改善に努めた。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |  |    |    |    |    |    |        |    |    |    |     |     |        |     |     |     |     |     |         |     |     |     |     |     |  |    |    |    |    |    |          |     |    |     |     |     |        |
| 3        | R1.6 | 教育課程について、馬と伴侶動物患者の一次診療(first- opinion)における臨床の Hands-on トレーニングは準最適なため、最善の水準に向けた改善の必要がある。 | EAEVE・欧州獣医学教育機関協会：欧州獣医学教育国際認証・審査最終評価 | 対応中 | <p>馬における診療頭数の増加及びシェルター獣医学や学外の個人動物病院との連携をさらに深める。</p> <p>→ 馬の診療頭数は、下表のように令和元年度から増え続けており、EAEVE 公式 Full Visitation において指摘された馬診療に関する事項は解決され、令和5年度も診療頭数が前年度比の1割増となった。</p> <table><tr><td></td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td></tr><tr><td>学内診療頭数</td><td>59</td><td>49</td><td>62</td><td>204</td><td>314</td></tr><tr><td>学外診療頭数</td><td>227</td><td>285</td><td>322</td><td>286</td><td>231</td></tr><tr><td>馬の診療頭数計</td><td>286</td><td>334</td><td>384</td><td>490</td><td>545</td></tr></table> <p>シェルター獣医学については、下表のように、鹿児島県や鹿児島市のシェルターに保護された犬猫に対して診察や不妊手術を実施した。令和2年度に COVID-19 の影響を受け大幅減少したが、令和3年度には回復の傾向を認め、令和4年度では令和元年度と同程度まで増加し、令和5年度もほぼ同様の症例数を維持した。</p> <p>個人動物病院との連携については、平成29年度に南九州地域を中心に設定した、本学部附属動物病院と個人開業動物病院との間におけるパートナー病院制度により連携を深めている。令和3年度までに個人動物病院176施設がパートナー病院として登録された。令和4年度よりパートナー病院制度を見直し、年度ごとの更新制としたため紹介症例のなかった施設の更新がなかったことにより令和4年度は120施設となったが、令和5年度は紹介病院数の増加に伴い132施設となった。</p> <table><tr><td></td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td></tr><tr><td>シェルター症例数</td><td>270</td><td>37</td><td>172</td><td>286</td><td>272</td></tr></table> |  | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | 学内診療頭数 | 59 | 49 | 62 | 204 | 314 | 学外診療頭数 | 227 | 285 | 322 | 286 | 231 | 馬の診療頭数計 | 286 | 334 | 384 | 490 | 545 |  | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | シェルター症例数 | 270 | 37 | 172 | 286 | 272 | 共同獣医学部 |
|          | R1   | R2                                                                                      | R3                                   | R4  | R5                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |  |    |    |    |    |    |        |    |    |    |     |     |        |     |     |     |     |     |         |     |     |     |     |     |  |    |    |    |    |    |          |     |    |     |     |     |        |
| 学内診療頭数   | 59   | 49                                                                                      | 62                                   | 204 | 314                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |  |    |    |    |    |    |        |    |    |    |     |     |        |     |     |     |     |     |         |     |     |     |     |     |  |    |    |    |    |    |          |     |    |     |     |     |        |
| 学外診療頭数   | 227  | 285                                                                                     | 322                                  | 286 | 231                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |  |    |    |    |    |    |        |    |    |    |     |     |        |     |     |     |     |     |         |     |     |     |     |     |  |    |    |    |    |    |          |     |    |     |     |     |        |
| 馬の診療頭数計  | 286  | 334                                                                                     | 384                                  | 490 | 545                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |  |    |    |    |    |    |        |    |    |    |     |     |        |     |     |     |     |     |         |     |     |     |     |     |  |    |    |    |    |    |          |     |    |     |     |     |        |
|          | R1   | R2                                                                                      | R3                                   | R4  | R5                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |  |    |    |    |    |    |        |    |    |    |     |     |        |     |     |     |     |     |         |     |     |     |     |     |  |    |    |    |    |    |          |     |    |     |     |     |        |
| シェルター症例数 | 270  | 37                                                                                      | 172                                  | 286 | 272                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |  |    |    |    |    |    |        |    |    |    |     |     |        |     |     |     |     |     |         |     |     |     |     |     |  |    |    |    |    |    |          |     |    |     |     |     |        |

| 4              | R5.1 | 実入学者数が入学定員に対し適正な数となっているか        | 令和3年度～自己点検・評価（認証評価の基準に基づく評価：様式2） | 対応中 | <p>学部、大学院修士課程、大学院博士前期課程、専門職学位課程においては、基準を満たしている。しかし、理工学研究科の博士後期課程の入学定員充足状況は5年平均で43%となっており、基準を満たしていない状況である。</p> <p>【理工学研究科（基準に達していない）】</p> <p>博士後期課程の入学定員充足状況は5年平均で43%となっており、改善が必要な状況にある。博士後期課程では分野横断型教育体制やジョブ型インターンシップの導入など、イノベーション人材育成のための教育研究の推進に努め、進学説明会を企画して進学と学位取得に対する興味と意欲の向上を図ることや、企業の研究者を社会人学生として受入れるための検討など入学希望者拡大に取り組んでいる。また、近年の入学状況を踏まえて令和7年度以降の入学定員を見直すこととし、令和9年度までに直近5年間の平均比率が基準に適合するよう、学内外と連携した以下のような対策を進めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般学生：学士・修士一貫教育の導入による修士論文の深化発展とそれに伴う研究心や知的好奇心の育成、さらに、海外協定校への留学や選択必修化した研究インターンシップによる学外研究交流体験等を通じた進取の精神の涵養により、博士後期課程への進学と学位取得に対する興味と意欲の向上を図っている。さらに、学位取得後のキャリア形成支援のために、ポスドクへの全学的な経済支援体制の整備も進みつつある。</li> <li>・社会人学生：理工学研究科の特徴的研究テーマとその成果を積極的に発信することで、新たな共同研究を開拓すると共に、共同研究の過程を企業の研究力アップに資する人材育成の機会としても捉え、社会人学生として研究者の受入れを検討している。企業からの具体的な問い合わせも増えつつある。</li> <li>・外国人学生およびその他学生：海外からの受験を容易にするオンライン入試や英語コースの整備に加え、異分野融合研究の推進のため、他分野からの学生の受入れも進めている。さらに、他分野から入学した学生に対しては、不足している専門教育を履修可能とするサポート体制の整備に取り組んでいる。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>入学定員充足率</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th><th>平均</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理工学研究科（博士後期課程）</td><td>50%</td><td>29%</td><td>29%</td><td>71%</td><td>38%</td><td>43%</td></tr> </tbody> </table> | 入学定員充足率 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | 平均 | 理工学研究科（博士後期課程） | 50% | 29% | 29% | 71% | 38% | 43% | 入試委員会 |
|----------------|------|---------------------------------|----------------------------------|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|----|----|----|----|----|----|----------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 入学定員充足率        | R2   | R3                              | R4                               | R5  | R6                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 平均      |    |    |    |    |    |    |                |     |     |     |     |     |     |       |
| 理工学研究科（博士後期課程） | 50%  | 29%                             | 29%                              | 71% | 38%                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 43%     |    |    |    |    |    |    |                |     |     |     |     |     |     |       |
| 5              | R3.8 | 入学定員に対する実入学者の割合の過去4年間の平均が、大幅に不足 | 第3期中期目標期間4年目終了時評価                | 対応中 | <p>博士後期課程の入学定員充足状況は5年平均で43%となっており、改善が必要な状況にある。STEM人材に対する社会のニーズが高まるにつれ、各分野の博士前期課程修了時の研究職・技術職の就職状況がここ数年極めて良好である。その反面、博士後期課程修了者を対象とするアカデミアをはじめとした求人は豊富とは言えない状況であり、学生の多くが博士前期課程修了後に</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 理工学研究科  |    |    |    |    |    |    |                |     |     |     |     |     |     |       |

|         |      | している（0.7 倍未満）。                                               |                                                 |     | <p>就職を選択する傾向にある。このような社会情勢の中、分野横断型教育体制やジョブ型インターンシップの導入など、イノベーション人材育成のための教育研究の推進に努め、進学説明会を企画して進学と学位取得に対する興味と意欲の向上を図ることや、企業の研究者を社会人学生として受入れるための検討など入学希望者拡大に取り組んでいる。また、近年の入学状況を踏まえて令和 7 年度以降の入学定員を見直すこととし、令和 9 年度までに直近 5 年間の平均比率が基準に適合するよう、学内外と連携した以下のような対策を進めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般学生：学士・修士一貫教育の導入による修士論文の深化発展とそれに伴う研究心や知的好奇心の育成、さらに、海外協定校への留学や選択必修化した研究インターンシップによる学外研究交流体験等を通じた進取の精神の涵養により、博士後期課程への進学と学位取得に対する興味と意欲の向上を図っている。さらに、学位取得後のキャリア形成支援のために、ポスドクへの全学的な経済支援体制の整備も進みつつある。</li> <li>・社会人学生：理工学研究科の特徴的研究テーマとその成果を積極的に発信することで、新たな共同研究を開拓すると共に、共同研究の過程を企業の研究力アップに資する人材育成の機会としても捉え、社会人学生として研究者の受入れを検討している。企業からの具体的な問い合わせも増えつつある。</li> <li>・外国人学生およびその他学生：海外からの受験を容易にするオンライン入試や英語コースの整備に加え、異分野融合研究の推進のため、他分野からの学生の受入れも進めている。さらに、他分野から入学した学生に対しては、不足している専門教育を履修可能とするサポート体制の整備に取り組んでいる。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>博士後期課程</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th><th>平均</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入学定員充足率</td><td>50%</td><td>29%</td><td>29%</td><td>71%</td><td>38%</td><td>43%</td></tr> </tbody> </table> | 博士後期課程   | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | 平均 | 入学定員充足率 | 50% | 29% | 29% | 71% | 38% | 43% |  |
|---------|------|--------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|----|----|----|----|----|----|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--|
| 博士後期課程  | R2   | R3                                                           | R4                                              | R5  | R6                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 平均       |    |    |    |    |    |    |         |     |     |     |     |     |     |  |
| 入学定員充足率 | 50%  | 29%                                                          | 29%                                             | 71% | 38%                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 43%      |    |    |    |    |    |    |         |     |     |     |     |     |     |  |
| 6       | R4.3 | さらに充実した教育の質を維持するため、また、実務家教員をはじめとする教員の負担を軽減するため、専任教員の補充が望まれる。 | 公益財団法人 日本臨床心理士資格認定協会：臨床心理分野専門職大学院令和 3 年度認証評価報告書 | 対応中 | <p>令和 4 年度に報告したとおり、令和元年度末に、医療領域を担当する実務家教員 1 人（准教授）が退職し、欠員となり、医療領域の学外実習をはじめ全教員でカバーする体制をとった。その後も 2 人の教育研究教員の退職が続いたが、学長からの承認が得られ、教育研究教員 2 人分については教授・助教のポストで後任補充ができた。医療領域の実務家教員については、学生指導や管理業務も可能な特任准教授 1 人を雇用でき形式上は 9 人体制となり、十分ではないが安定的な研究科運営の基盤ができた。</p> <p>ところが、令和 5 年度中に 3 人の専任教員から退職の申し出があった。司法・矯正領域の教授（実務家教員）は 7 月、助教は 12 月、教育領域の准教授（実務家教員）は 2 月の申し出であった。各々、大学執行部に後任採用人事の上申を行い、採用人事の了承を得たものの、スケジュール等の問題が大きく、令和 6 年度は欠員 2 人でのスタートとならざるを得なかった。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 臨床心理学研究科 |    |    |    |    |    |    |         |     |     |     |     |     |     |  |

|   |      |                                                                                                                                                                                                                   |               |                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |     |
|---|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|-----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
|   |      |                                                                                                                                                                                                                   |               |                       | <p>この間、学長の下、司法・矯正領域と医療領域の実務家教員の公募による採用を認められ、令和6年4月1日付で採用できた。また、臨床心理分野専門職学位課程(大学院)及び、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会が定めた「臨床心理士受験資格に関する大学院指定運用内規」により助教は0.5人換算となるため、研究科運営上、講師以上が必須であることを認められ、大学執行部の理解の下で、令和6年6月1日付着任の特任教員も講師職での採用となった。その後、残りの専任教員である教育領域の実務家教員についても令和6年9月1日付で採用することができ、特任教員1人を含む9人体制を整えることができた。</p> <p>現在、本学は、人件費ポイント制を用いた人件費管理下にあり、昇任人事及び新規採用人事等が極めて困難な現状にある。しかしながら、本研究科の入試状況や就職率、臨床心理士資格の高い取得率等の維持は、社会的ニーズが存在する証明となっており、本研究科の強みとなっている。</p> <p>教員の退職に伴う補充は、研究科運営上の大きな課題であるが、円滑な研究科運営、心理臨床家としての養成における教育の質の担保及び向上のため、臨床心理分野専門職大学院として適正な教育研究教員及び実務家教員の人材を確保していく努力を今後も講じていく。</p> |     |
| 7 | R5.3 | <p>1) 臨床実習における個別同意書の取得については、一部診療科のみの対応となっていることや個別同意書の見直しに関する作業が中断していることについては改善が望まれる。</p> <p>2) 臨床実習に必要な設備について、附属病院に配置された106台の診療用ユニットは、歯科医師による診療、研修歯科医の研修、学生の臨床実習のすべてに兼用されていることから、臨床実習を優先した利用が可能となるような配慮が望まれる。</p> | 令和4年度歯学教育評価結果 | <p>対応済</p> <p>対応中</p> | <p>1) 全ての診療に対して個別同意書の取得を求めず、取得を必要とする診療内容を各診療科で検討している。各診療科での検討結果を令和6年5月7日開催の臨床教育部会の中で確認済みであり、令和7年1月から、新様式の個別同意書での運用を開始した。</p> <p>2) 令和4年度第2次補正予算「医学部等教育・働き方改革支援事業」に採択され、令和5年度に学生専用ユニットを4台配置し、臨床能力習得のための環境整備を行い、引き続き必要な学生専用ユニットを整備していく。</p> <p>新外来診療棟への移転に伴う対応について、診療科ごとに検討をしている。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 歯学部 |

|   |      |                                                |                                        |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |         |
|---|------|------------------------------------------------|----------------------------------------|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|
| 8 | R6.3 | ダブル・ディグリー／ジョイント・ディグリー・プログラムによる国内学生海外派遣を実施しているか | 令和３年度～自己点検・評価（認証評価の基準に基づく評価：別紙様式６－５－５） | 対応中 | <p>【改善計画】</p> <p>派遣に向けた必要な支援及び周知・案内方法の検討を進めるとともに、他大学や学部からの進学と学位取得に対する興味と意欲の向上を図るため、進学説明会や留学説明会において積極的に制度紹介を行い、令和９年度までに国内学生海外派遣を実施する。</p> <p>【進捗状況】</p> <p>ダブル・ディグリー・プログラムによる海外大学からの受入状況は、2022 年度に湖南農業大学（中国）から２名受入、2023 年度に湖南農業大学（中国）から２名受入、2024 年度に湖南農業大学（中国）から３名、メーファールアン大学（タイ）から１名を受入れている。しかし、国内学生海外派遣においては、修了要件となっている語学基準を満たせない、専攻のミスマッチ等により、派遣実績がない状況である。引き続き、国内学生派遣に向けて必要な支援を検討するとともに、改善策を実施していく。</p> | 国際交流委員会 |
|---|------|------------------------------------------------|----------------------------------------|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|

## 第4期中期目標・中期計画の進捗状況に係る自己点検・評価

本学では、各中期目標・中期計画及び評価指標の目標値を達成するために、学内における進捗管理を主な目的としたロードマップ（各年度の行動計画）を策定しており、令和6年度行動計画の達成状況等について自己点検・評価を実施し、その結果に応じて令和7年度以降の行動計画の見直しを行った。

### 【第4期中期目標・中期計画の進捗状況（令和6年度）】

#### 中期計画（31本）

##### 進捗状況（3段階評価）

|                              |    |
|------------------------------|----|
| 評価：Ⅲ（達成水準を大きく上回ることが見込まれる）・・・ | 1  |
| Ⅱ（達成水準を満たすことが見込まれる）……………     | 30 |
| Ⅰ（達成水準を満たさないことが見込まれる）………     | 0  |

#### 令和6年度行動計画（174本）

##### 達成状況（3段階評価）

|                      |     |
|----------------------|-----|
| 評価：Ⅲ（計画を上回って達成している）… | 9   |
| Ⅱ（計画を達成している）……………    | 164 |
| Ⅰ（計画を達成していない）……………   | 1   |

※中期計画の詳細は大学ホームページ（<https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/chukikeikaku.html>）参照

## 【優れた取組・特色ある取組】

### （１）教育に関する事項

#### ○産官学連携による畜産獣医学教育研究拠点を中心とした地域産業創生プロジェクト

令和 6 年 4 月に曽於市に南九州畜産獣医学拠点（通称 SKLV＝スクラブ）がオープンしました。その中に設置された共同獣医学部附属南九州畜産獣医学教育研究センター（SKLV センター）では、産業動物臨床獣医学と動物衛生学の実習プログラムを作成し、全国畜産・獣医学部生を対象とした 1 週間の滞在型実習を 123 名受入れました。また、南九州畜産獣医学教育研究センターの教員組織を拡充し、新たに畜産学部門を加え、附属牧場や畜産分析室を整備しました。さらに、農場経営者・畜産技術者・獣医師を対象にした企業共催リカレント教育「SKLV セミナー（対面開催 14 回）」、日本獣医師会「農場管理専門獣医師研修会（滞在型開催 2 回）」を開催し、計 580 名が参加されました。また、畜産分析室での「畜産物・飼料食品の分析評価の受託事業受入件数」も 13 件と増加しました。畜産 GAP の指導・審査機関としての事業も継続し、審査範囲を全国へと拡大しています。このように、実践的教育環境の向上を図り、畜産獣医学の高度技術者養成を通じて地域に貢献する国内トップレベルの畜産獣医学教育拠点形成に向け、産学官連携体制を発展させています。



#### ○教師教育開発センター ～ 全学的な教員養成と質保証 ～

教員養成カリキュラムの全学的管理・運営体制の整備を行い、組織的指導体制を確立することに加え、地域社会と連携した教員研修等の支援及び全学的な教職課程の質保証を推進することを目的として、令和 6 年 4 月に総合教育機構に「教師教育開発センター」が設置され、本学における教職課程の質保証、地域社会と連携した教員研修等の充実を図るための各種事業を行っています。令和 6 年度の主な取り組みは以下のとおりとなっています。

- ① 教育学部以外の教職課程を置く学部学生を対象に、共通の内容で「教職オリエンテーション」「教職科目」「教育実習」を実施する計画を策定しました。また、「教職オリエンテーション」で配布する「教職課程ハンドブック」を作成しました。
- ② 学校現場のニーズに応える教員研修を実施するため、教育学部が鹿児島県教育委員会からの委託契約に基づいて令和 5 年度に第 1～2 期分を開設した履修証明プログラム「学校教育キャッチアップ講座」を継承しました。令和 6 年度も本講座に係る委託契約に基づいて第 3～4 期分を開設し、合計 24 名に履修証明書を交付しました。



- ③ 教職支援室において、全学部学生を対象に、教員採用試験に向けての各種対策（学習会、面接練習、集団討論、模擬授業、小論文指導等）だけでなく、教職に就いたときに役立つ授業力や生徒指導力等を身に付けられる実践的

な学びの機会を提供しました。

- ④ 教職履修カルテの様式を教員養成カリキュラム委員会で決定後、令和 7 年 3 月末にシステム機能追加を完了し、教職履修カルテの全学的導入を達成しました。

### ○海外有力大学との交流事業推進

令和 6 年 12 月、中国・清華大学と大学間学術交流協定及び学生交流覚書を締結しました。中国・清華大学とは、鹿児島県と平成 25 年 8 月に双方の交流、協力関係を促進することを目的に包括協定が締結され、本学は、県の包括協定の下、研究者及び学生交流事業を実施してきました。令和 6 年 7 月には、清華大学サマープログラム（清華大学学生受入事業）の実施や、稲盛アカデミーと清華大学日本研究センターとの間で起業家研修プログラム等の企画・実施に関する合意覚書を締結するなどの交流を重ねてきました。締結後は、派遣留学や短期海外派遣研修の開始に向けた協議のほか、令和 7 年には清華大学書記の来訪に合わせた記念式典の開催が計画されており、連携関係の更なる強化が期待されます。



令和 6 年 11 月、米国・ワシントン大学と大学間学術交流協定を締結しました。今後の交流計画では、研究者交流や学生交流を推進するとともに、水産学や防災

分野において、両大学が協力して、鹿児島県の地域的特性を活かした共同プロジェクトを構築していくことを目指します。また、ワシントン大学工学部と本学理工学研究科との間で、共同研究の開始に向けた協議が始まり、更なる交流発展が期待されます。

### ○鹿児島大学と地域社会の協創による実践的な高度情報専門人材の確保に向けた機能強化

令和 6 年度大学・高専機能強化支援事業（支援 2：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）に採択され、学術的な知識と技術に加え、情報関連技術に対する社会や地域の多様なニーズに対応できる、実務的かつ実践的な能力を備えた高度情報専門人材を養成するため、理工学研究科博士前期課程に情報科学専攻を設置するとともに、博士後期課程総合理工学専攻にも情報科学コースを新設しました。新たに理工学研究科附属 DX コネクトセンターを新設し、情報科学に関する地域社会との連携等を通じて、俯瞰的視野で新たな課題を発見し解決できる高度情報専門人材を養成に鋭意取り組んでいます。

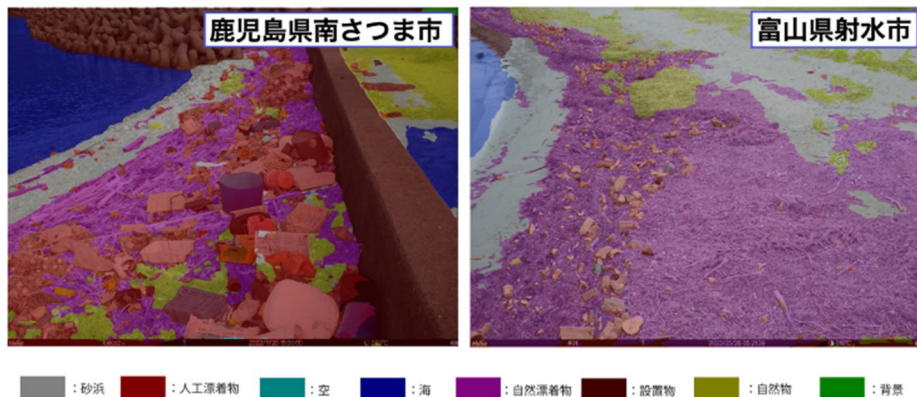
また、令和 7 年 3 月には、アジア圏域で異分野間の多様な学術連携体制や高度情報専門人材養成のための教育連携体制構築の契機とするための国際シンポジウム（International Symposium on Collaborative Informatics 2025）をインド・カルナタカ工科大学と共同開催しました。国内外の約 50 機関からの参加者延べ 120 人（うち、外国人 46 名）が集まり、基調講演 12 件、研究発表 43 件の講演の他、学内外の施設見学や現場見学、意見交換会などを行うとともに、情報科学をはじめとする理工学分野に関する今後の協力体制を確認しました。

### （２）研究に関する事項

#### ○リモートセンシングと AI を組み合わせた海洋プラスチック観測・定量化システムの構築・社会実装

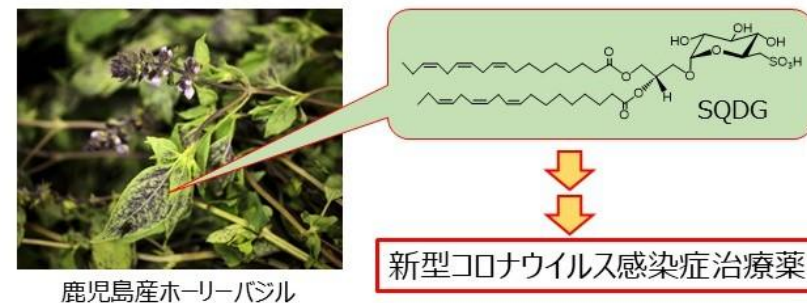
鹿児島大学大学院理工学研究科、海洋研究開発機構、九州大学応用力学研究所の研究グループによる、リモートセンシングと AI を組み合わせた海洋プラスチック観測・定量化システムの構築は、環境省が作成した、世界初の「リモートセンシング技術を用いた海洋ごみモニタリングの手法調和ガイドライン」に、新たに開発した手法や実証実験の結果が掲載されるなど、その作成に大きな貢献を果たしました。このガイドライン

を使って手法の標準化を進めることによって、国際的なプラスチック汚染対策の立案に我が国が積極的に貢献できるようになります。また、本事業で開発されたシステムによって、街中ごみを可視化し、汚染の源となっている品目や場所を特定することや、画像から海岸漂着ごみの量や種類を推定することが可能となり、汚染対策の効率化にも貢献できるようになりました。



### ○学内連携研究による新型コロナウイルス治療薬シード化合物の発見

本学理工学研究科理学系の濱田季之准教授らの研究グループは、理工学研究科工学系の石川岳志教授、ヒトレトロウイルス学共同研究センター・トランスレーショナルメディスン分野の須藤正幸教授、先端科学研究推進センター感染制御研究部門の岡本実佳部門長および馬場昌範特任教授等と密接に連携し、学際的な共同研究を展開しました。この取り組みにより、鹿児島県産のホーリーバジル（タイ料理のパオライスにも使われ、香りが特徴的なシソ科薬用植物）から単離した「sulfoquinovosyl diacylglycerol (SQDG)」という化合物が、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の増殖を酵素レベルおよび培養細胞レベルの実験で顕著に抑制することを明らかにしました。この発見は、身近な食用植物ホーリーバジルが新型コロナウイルス感染症の新たな治療薬開発の出発点（シード化合物）となる可能性を強く示すものであり、天然資源の有効活用や、新薬創出による地域産業振興にも大きな期待が寄せられています。なお、本研究の内容は、令和6年11月25日、Springer Nature 社発行の国際誌「Journal of Natural Medicines」にオンライン掲載され、国内外で関心を集めています。



### ○2025 年日本国際博覧会（大阪万博）実証試験・出展

本学理工学研究科の金子芳郎准教授は、高分子の分子構造制御に関する研究を専門としており、分離ナノ膜の高性能化を目指した開発に取り組んでいます。金子准教授は、九州大学 藤川茂紀教授を中心として 2020 年から開始された研究プロジェクト「ムーンショット型研究開発事業『"ビヨンド・ゼロ"社会実現に向けた CO<sub>2</sub>循環システムの研究開発』」に参画しています。本プロジェクトでは、圧倒的に高い CO<sub>2</sub>透過量を有するシリコンをベースとした分離ナノ膜を用いることで、これまで不可能とされてきた膜分離による大気中からの CO<sub>2</sub>回収の実現を目指しています。さらに、回収した CO<sub>2</sub>を炭素燃料へと変換するまでのプロセスを、連続・一貫して行う「Direct Air Capture and Utilization (DAC-U) システム」の創出を目指しています。本プロジェクトは、2025 年日本国際博覧会（大阪・関西万博）の企画展示「グリーン万博」において、実証・展示に選ばれ、万博会期中、会場内にて開発品の実証と幅広い公開展示が行われます。同万博では、会場全体を未来社会のショーケースと位置づけ、来場者が少し先の未来を見て、さわって、体験する様々な企画が展開されます。

### （３）医療に関する事項

#### ○外来診療棟・病棟（A棟）開院記念フェアを開催

鹿児島大学病院は、令和6年12月1日に、外来診療棟・病棟（A棟）開院記念フェアを開催しました。

本フェアは、外来診療棟・病棟（A棟）が令和6年9月18日に開院したことを記念し、鹿児島大学病院で働く医療従事者にスポットを当て、職業体験、進路相談、見学ツアー等を行うことで、医療職に対する興味・関心を高めていただくことを目的に実施されました。

当日は、対象となる中学生、高校生、大学生、短期大学生、専門学校生を中心に、約300名の方に来場いただきました。

各職種のブースでは、妊婦体験や普段触れることのない医療機器の操作体験、職員による進路相談や医学部保健学科教員による講演会、DMAT（災害派遣医療チーム：Disaster Medical Assistance Team）・DPAT（災害派遣精神医療チーム Disaster Psychiatric Assistance Team）活動報告会などが行われ、医療従事者の活動を知っていただく絶好の機会となりました。



### ○急性期脳梗塞患者を対象としたブレイン・マシン・インターフェース（BMI）を用いた治療研究を開始

鹿児島大学病院では、株式会社 LIFESCAPES（本社 東京都港区）と共同で、発症後間もない脳梗塞患者の上肢麻痺に対する特定臨床研究を開始しました。この研究では、同社が開発した医療機器「LIFESCAPES 医療用 BMI（手指タイプ）」を使用します。

本研究に使用するブレイン・マシン・インターフェース（BMI）は、麻痺のある手指を動かしたいと考えた時の生体信号を、頭に装着したヘッドセットで捉え、意図した生体信号が検出されたタイミングで麻痺のある手に装着した電動装具が駆動し、手指を動

かすことで筋力を維持、発達又は回復させることを目的としています。手指の麻痺が残る多くの患者さんにとって、新たな治療の選択肢として期待されています。

今回の研究では、リハビリテーション科と脳神経外科が共同で、発症から14日以内の急性期脳梗塞の患者さんを対象に、この医療用 BMI を用いた治療の効果を検証する予定としています。

### （４） 社会貢献に関する事項

#### ○畜産業の GX 推進へ 県、大手食品メーカー、和牛農家などが連携協定

令和6年4月2日、鹿児島大学共同獣医学部は、鹿児島県、食品メーカー大手の味の素、県内の畜産業者などと「鹿児島県畜産業における GX 推進及び産業振興に向けた連携協定」を締結しました。

本協定は、栄養吸収率を高める飼料用アミノ酸を活用して、牛から排出される温室効果ガスの削減及び生産コストの低減・生産性の向上を図ることにより、鹿児島県畜産業における GX を推進するとともに、同産業の振興を図ることを目的としたもので、飼料用アミノ酸の給与試験の実施、試験結果の共有・発表及び普及促進、鹿児島県産牛肉・生乳等の付加価値向上による鹿児島県畜産業の振興等に取り組むものです。

今後、各機関がそれぞれの強みを活かし緊密に連携することにより、本県における畜産業の GX 及び産業振興が推進されることが期待されます。



#### ○JICA 九州センターとの JICA 海外協力隊の連携派遣に係る覚書の締結

令和7年3月10日に農学部とJICA九州センターは、マダガスカル国でのコメの生産量増大を共同で推進するため、JICA 海外協力隊の連携派遣に係る覚書を締結しました。

マダガスカルでは、主食であるコメの生産が人口の増加に追いついておらず、生産性の向上が課題となっています。この覚書に基づき、JICA 海外協力隊として本学の国際食料資源学特別コースを含む学生ら計13名（長期派遣3名、短期派遣10名）が、今後5年間にわたりマダガスカルに派遣され、コメの生産量増大に向けた協力を行います。具体的には、派遣された学生らは現地で国立農村開発応用研究センター（FOFIFA）に所属し、FOFIFA 研究者のスキルアップを支援するとともに、コメ収量向上に貢献する新たな稲作技術の導入や、農家への支援などに従事します。第1陣として、令和7年8月から1名が2年間派遣される予定としています。



### ○大規模複合災害に備えた学際的防災研究の推進と防災人材の育成（地域防災教育研究センターの取り組み）

地域防災教育研究センターは、南九州・南西諸島域における災害の防災・減災を推進するため、災害の実態解明、予測、防災・減災技術開発、防災教育、災害応急対応、災害復旧復興などの課題に対し、総合大学の強みを生かした学際的防災研究の成果を基礎として、地方公共団体や地域住民と連携した課題解決

に取り組み、地域防災力の向上に貢献することを目指しています。令和6年度は、防災シンポジウムを1回、防災セミナーを5回開催し、1376人の参加を迎え、地方公共団体や地域の防災リーダー、一般市民に対して防災・減災の学習機会を提供しました。特に、シンポジウムおよび防災セミナーに係る広報活動の見直し（C P D（技術者の継続学習制度）へのプログラム提供）により、より多くの技術者等の参加を得ることができました。



### ○2024 鹿児島大学奄美群島拠点シンポジウム－奄美群島の「地域活性化の中核的拠点」をめざして－を奄美市で開催

奄美群島内の自治体や企業等と連携して実施してきた本学の研究、地域課題解決及び教育・人材育成の取組を紹介し、奄美群島の地域活性化について討議することを目的として、令和6年10月11日、12日に、奄美市のアマホーム PLAZA（奄美市市民交流センター）マチナカホールとオンラインのハイブリッドにより「2024 鹿児島大学奄美群島拠点シンポジウム－奄美群島の「地域活性化の中核的拠点」をめざして－」を開催しました。

本シンポジウムには、両日で一般、自治体・企業・学校・団体等の職員、高校生など対面延べ 154 名、オンライン延べ 167 名が参加しました。1 日目は、「奄美群島における学術研究の推進と産学官金連携の推進」をテーマとした講演と「産学官金連携でめざす奄美群島の未来」と題してパネルディスカッションが行われ、奄美群島のブランド化、生物文化多様性と経済発展との両立、奄美群島の未来に向けての大学との連携などについて意見交換が行われました。2 日目は、「未来の奄美群島を担う人財育成・教育」をテーマとした講演と「奄美群島振興のための人財育成と教育」と題したパネルディスカッションが行われ、離島教育や少人数教育のメリット・デメリット、群島内南北 500 キロの高校・12 市町村・大学が繋がったプラットフォーム構想などについて意見が交わされました。パネリストには、鹿児島県立大島高校の現役高校生も登壇し、貴重な意見を述べました。



### ○サーキュラーエコノミー実証事業～食品残渣の堆肥化・飼料化実証事業のための 5 者連携の開始～

本学が推進するサーキュラーエコノミー実証事業に関連して、11 月 6 日に、本学、SHIROYAMA HOTEL kagoshima、株式会社グリーナー、山元酒造株式会社及びサーキュラーパーク九州株式会社の 5 者が連携し、食品残渣の堆肥化・飼料化実証事業の開始に向けた確認書を締結しました。

本事業において本学は、製造品の成分の分析結果を元に有効な堆肥・飼料用途を提案し、その評価を行う役割を担います。

